

ビサンチン時代に、最も偉大で神聖とされたアヤソフィアは今日では博物館であり、訪問者がライバルのいないほどの建築の名作として入場する。アヤソフィアはビサンチン時代に建てられたローマの記念館だ。教会の建設から帝国の崩壊までの 800 年間、建築の新技術や発明にもかかわらず、アヤソフィアを超える建物は建設されなかった。

537 年に建設された日付からの 916 年間、イスタンブールが征服された日付までアヤソフィアは教会として使われた。1934 年のこの日付までの 481 年間、モスクとしてムスリムに仕えた。トルコ創始者による広範囲の復元の命令後、ムスタファ・ケマル・アタテュルクは 1750 年に漆喰でコーティングされたビザンチンのモザイクを日光に当てるために、建物は 1935 年 2 月に訪問者向けにオープンし、3 番目の博物館で、トルコで最も多くの人が訪れる。

その名前はアヤソフィアで、キリスト教において神に捧げられた 3 つの形容詞のうちの 1 つだ。

それらの 3 つの形容詞は、アヤソフィア(神聖な知恵)、アヤアイリーン(神聖な平和)、アヤダイナミス(神聖な力)と定義されている。

スルタンアーメットモスクは、イスタンブールとトルコにおける 6 つの光塔を持つ唯一のモスクであり、オスマン帝国と他のモスクにおける無類である。光塔はモスクの角にあり、中庭は合計で 16 のバルコニーがある。幾分か多くのセクションは青のタイルに飾られた。モスクの光塔についての伝説によると、私が意見を求めた建築家メフメト・アーガーはスルタンアーメットを金の光塔を持つ。トルコにおける”ゴールド”の発音が、数字の 6 と障壁であることにより、建築家メフメト・アーガーはこのポイントを誤解し、6 つに光塔があるモスクを好んだ。金の光塔がある代わりに、コストがとても高くなった。ほとんどが広場として計画された身廊の規模が 51~53m だ。建築家メフメト・アーガーは、計画として重要な革命と、建築学としての眺めの特徴から古代期間のオスマン帝国のモスクのデザインがなかった。しかし、モスクの内装は以前のオスマン帝国のモスクよりも衰えた仕様である。本質的に、世界中でモスクが“青いモスク”として知られている理由は、タイルと装飾物によるもので、それらのほとんどが青と緑色の壁とドームだ。